

201218014A

厚生労働科学研究費補助金

認知症対策総合研究事業

病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築  
に関する研究事業

(H24－認知症－一般－002)

平成 24 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 神崎 恒一

平成 25(2013)年 3 月

# 目 次

## I. 総括研究報告書

病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築に  
関する研究事業

研究代表者 神崎 恒一（杏林大学医学部高齢医学） ..... 1

資料1：三鷹武蔵野認知症連携を考える会ワーキンググループ会議議事録・・・ 9

資料2：三鷹武蔵野認知症連携情報交換シート ..... 24

資料3：情報交換シートの運用状況 ..... 31

資料4：認知症在宅ケアマニュアル「認知症のことで困ったら」 ..... 45

## II. 分担研究報告書

1. 武田 章敬（国立長寿医療研究センター 脳機能診療部） ..... 77

2. 小田原 俊成（横浜市立大学附属市民総合医療センター・  
精神医療センター） ..... 79

3. 旭 俊臣（旭神経内科リハビリテーション病院） ..... 82

4. 木之下 徹（医療法人社団こだま会 こだまクリニック） ..... 84

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ..... 119

IV. 研究成果の刊行物・別刷 ..... 122



厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）  
総括研究報告書

病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築に関する研究事業

研究代表者 神崎恒一 杏林大学医学部高齢医学 教授

研究要旨

認知症地域包括ケア実現のため、研究代表者は三鷹市、武蔵野市において病（認知症専門病院）・診（かかりつけ医もしくは相談医）・在宅支援機関（地域包括支援センター、行政等）三者の連携組織である“三鷹武蔵野認知症連携の会”を設立した。平成24年度は4/9, 7/2, 10/15, 1/21にワーキンググループ会議を開催した（議事録：資料1）。そのなかで、三者間の双方向型情報交換シート（資料2）の運用状況を調査したところ、これまで三鷹市で112例、武蔵野市で80例のシート利用が確認された（資料3）。また、シート利用の効果として、三者間での情報伝達の円滑化、情報共有化によって認知症の早期介入、適切な介護サービスの導入、患者・家族の安心感の向上が得られたことが確認された。なお、シート1は早期診断ツールとして使用している。また、分担研究者の協力のもと、在宅相談機関向けに認知症在宅ケアマニュアル「認知症のことで困ったら」を作成した（資料4）。平成25年度に本冊子を関係各所に配布し、冊子利用の効用をアンケートで調査する予定である。その他、地域包括ケア構築のために在宅相談機関もしくは地域住民を対象とした認知症啓発セミナーを開催した。以上、今年度は認知症地域包括ケアネットワーク実現に向けた準備を整えることができた。

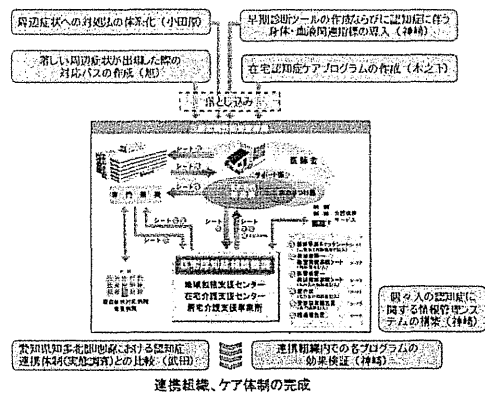
研究分担者

武田 章敬：国立長寿医療研究センター 脳機能診療部 医長  
小田原 俊成：横浜市立大学附属市民総合医療センター・精神医療センター  
准教授・部長  
旭 俊臣：旭神経内科リハビリテーション病院 院長  
木之下 徹：医療法人社団こだま会 こだまクリニック 理事長・院長

A. 研究目的

認知症高齢者ならびにその家族が地域で安心して暮らすためには、医療、介護、福祉の連携による地域ケアの充実が必要である。これを実現するため、杏林大学病院が所在する三鷹市、ならびに隣接する武蔵野市で、I. かかりつけ医もしくは相談医（医師会）、II. 専門医療機関（杏林大学病院他）、III.

在宅相談機関（地域包括支援センター他）の三者の連携組織である“三鷹武蔵野認知症連携の会”を設立し（流れ図参照）、



現在ワーキンググループ（表参照）として活動を行っている。

### 三鷹・武蔵野認知症連携を考える会WG

三鷹市	行政	健康福祉部高齢者支援室5名
	在宅介護関連	地域包括支援センター(主任ケアマネジャー4名)
	医師会	医師2名(医師会長はオブザーバー)
	専門病院	杏林大学病院もの忘れセンター医師2名、 認知症看護認定看護師2名、地域医療連携室2名 吉岡リハビリテーションクリニック(外来)1名 井の膳病院(三鷹市委託認知症ベッド)2名 長谷川病院(急性期BPSD治療病棟)1名
武蔵野市	行政	武蔵野市健康福祉部高齢者支援係4名
	在宅介護関連	武蔵野市地域包括支援センター2名 在宅介護支援センター2名
	医師会	医師2名(医師会長はオブザーバー)
	専門病院	武蔵野赤十字病院医師、ソーシャルワーカー

本活動の中で、三者間の双方向型情報交換シートを作成し(流れ図①～⑥)、試験的運用を開始した。これにより必要な情報が医療機関に伝わり診療が円滑に行われること、逆に医療機関の情報が在宅相談機関に伝わり介護や福祉の具体的方策がたてられるようになること、ひいてはこれが認知症患者本人の医療、地域資源利用などのサービス向上につながり、本人ならびに家族の不安が取り除かれることが期待される。

一方、本連携の課題として、認知症の早期診断ツールと認知症に伴う身体、生活、血液関連指標の導入を検討する必要がある、在宅相談機関向け、もしくは家族向けの認知症対応マニュアルがない、特に周辺症状が出現した場合の方策がないことなどが挙げられる。

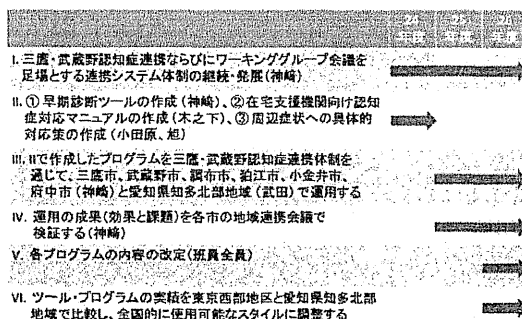
“三鷹武蔵野認知症連携の会”は全国に先駆けた三者連携体制であり、すでに活動中である。今後、三鷹武蔵野認知症連携を完成するためには、上記の課題を克服する必要がある、そのため

に本研究事業では各分野のスペシャリストである研究分担者に後述する業務を委託した。作成したプログラムは現行の三鷹武蔵野認知症連携組織内で運用し、その成果をワーキンググループで確認する予定である。

今年度は“三鷹武蔵野認知症連携の会”の運営(3か月に1回ワーキンググループ会議を開催)を継続しながら、早期診断ツールと認知症に伴う身体・血液関連指標の詮索、周辺症状対処法マニュアル、在宅認知症ケアプログラム、著しい周辺症状が出現した際の対応パスの作成を行う予定である。

平成25年度以降は、これらのプログラムを三鷹武蔵野認知症連携組織内で運用し、その成果をワーキンググループ会議内で確認する。次に、成果をもとに各プログラム内容を改定し、三鷹武蔵野をモデルとした認知症連携体制を目指す。その際、他の地域(愛知県知多北部地域など)と比較し、三鷹武蔵野モデルが全国的に展開できるようスタイルを調整する。

### 研究計画



## B. 研究方法

### 研究全体の計画

神崎 (研究代表者) は本研究の一環として、現在“三鷹武蔵野認知症連携の会”の組織・運営に携わっており、かかりつけ医または相談医 (三鷹市、武蔵野市医師会)、専門医療機関 (杏林大学医学部付属病院他)、在宅相談機関 (地域包括支援センター、在宅介護支援センター、市役所高齢者支援課) の代表計34名と3か月に1回ワーキンググループ会議を開催している。今後の計画として、

- I. 本ワーキンググループ会議を足場として、連携システムの構築を進める (神崎)。
- II. その際、課題として挙げられている① 早期診断ツールの作成 (神崎)、② 在宅相談機関向けの認知症対応マニュアルの作成 (木之下)、③ 周辺症状への具体的対応策の作成 (小田原、旭) を行う。
- III. 在宅相談機関もしくは地域住民を対象とした認知症啓発セミナーを開催し、地域全体での認知症対応力向上を目指す。

### 各研究者の業務を具体的業務

神崎 恒一：“三鷹武蔵野認知症連携の会”の運営、ワーキンググループ会議の開催 (3か月に1回)、早期診断ツールの作成、

木之下 徹：在宅相談機関 (ケアマネージャー等) 向けの認知症対応マニュアルの作成 (認知症の症状に対してどのように対処すべきかについて、分担研究者がこれまで経験し、集積した事例に基づいてマニュアルを作成する)

小田原 俊成：周辺症状への対処法の体系化 (精神科である分担研究者が、在宅における認知症の周辺症状への対処法マニュアルを作成する)

旭 俊臣：小田原 俊成と共同して周辺症状への対処法マニュアルを作成する。その際、経験した症例を事例集としてマニュアルに掲載する。

武田 章敬：愛知県知多北部地域で現在行っている認知症連携形態を紹介し、現状を把握する。それとともに、今後の三鷹武蔵野連携モデルの適用性について検討する。

(倫理面への配慮)

本研究の実施にあたっては厚生労働省が定める「臨床研究に関する倫理指針」を遵守するとともに各施設の倫理委員会等の承諾を受けることとする。特に、診断ツールやマニュアルを使用する際には、杏林大学医学部の倫理委員会で審査、承認を得た上で、研究として試験的に運用する旨を対象者 (ツール・マニュアルの実施者、被実施者) に説明し、目的、期待される成果をあらかじめ説明する。

また、愛知県知多北部地域で運用する際には、国立長寿医療研究センターの倫理委員会で審査、承認を得た上で、上記と同様の形で実施する。

なお、個人情報の保護に十分配慮する。

## C. 研究結果

### I. 三鷹武蔵野認知症連携ならびにワーキンググループ会議を足場とする連携体制の継続・発展

平成 24 年度は 4/9, 7/2, 10/15, 1/21 にワーキンググループ会議を開催した。議事録を資料 1 に示す。

そのなかで、かかりつけ医もしくは相談医（医師会）、専門医療機関（杏林大学病院他）、在宅相談機関（地域包括支援センター他）の三者間情報交換シート（資料 2）の運用状況の確認（資料 3）のほか、杏林大学病院（認知症疾患医療センター）への相談状況などが話題の中心であった。

また、三鷹市、武蔵野市以外に調布市、狛江市、小金井市、府中市においても同様の連携体制を構築するため、11 月 5 日に調布市、狛江市、小金井市、府中市、三鷹市、武蔵野市の病院、医師会、地域包括支援センター、行政の代表者が出席し、各市における今後の認知症医療-介護-福祉の連携について検討する協議会を開催した。

### II-① 早期診断ツールの作成（神崎）

早期診断ツールについては“三鷹武蔵野認知症連携の会”内で協議し、最終的にシート 1（資料 2）の 13 項目に絞った。これをケアマネージャー中心に地域で配布し、認知症のスクリーニングに用いている。具体的にはシート 1 をシート 2 とともにもの忘れ相談医に持参し、認知症の早期診断に役立てている。

### II-② 在宅相談機関向けの認知症対応マニュアルの作成（木之下）、③ 周辺症状への具体的対応策の作成（小田原、旭）

3 人の分担研究者に委託し、認知症在宅ケアマニュアル「認知症のことで困ったら」を作成した（資料 4）。本冊子を平成 25 年度に三鷹市、武蔵野市内の地域包括支援センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、病院、診療所から認知症の方を在宅でみている利用者に配布する予定である。その際、冊子利用の効用をアンケートで調査する。

### III. 在宅相談機関もしくは地域住民を対象とした認知症啓発セミナーの開催

①10月12日に調布市文化会館たづくり・映像シアターにおいて地域住民を対象とした認知症啓発セミナー「認知症と向き合うー認知症の方々を地域で支えるためにー」を開催した。

②平成 25 年 3 月 16 日に三鷹市公会堂で地域住民を対象とした認知症啓発セミナー「街ぐるみで考える認知症」（講演とパネルディスカッション）を開催した。このセミナーは地域住民の認知症への理解による地域包括ケア体制の強化を目指すものである。

## D. 考察

認知症高齢者ならびにその家族が地域で安心して暮らすためには、医療、介護、福祉の連携による地域包括ケアの構築が必要である。これを実現するため、杏林大学病院が所在する三鷹市、ならびに隣接する武蔵野市で、I. かかりつけ医もしくは相談医

(医師会)、II. 専門医療機関（杏林大学病院他）、III. 在宅相談機関（地域包括支援センター他）の三者の連携組織である“三鷹武蔵野認知症連携の会”を設立し、3 カ月に 1 回連携会議を開催している。

本“連携の会”活動の中で、これまで三者間双方向型情報交換シートを作成し、運用を行っている。これにより、三者間での情報伝達の円滑化、情報共有化によって、認知症の早期発見、早期介入、適切な介護サービスの導入、患者・家族の安心感の向上につながると考えられる。資料 3 に示すように三鷹市において 112 例、武蔵野市において 80 例のシート使用が報告された。シート 1 は家族が相談機関職員（ケアマネなど）と一緒に認知症が疑われる家族の症状をチェックするもので、“三鷹武蔵野認知症連携の会”内で協議し、最終的に 13 項目に絞った。シート 2 は相談機関職員が記入するもので、現在治療中の疾患、主治医、介護保険の利用状況、介護状況、BPSD 症状などを記載するようになっている。主治医またはもの忘れ相談医はシート 1、2 に書かれている情報をもとに診察を行い、診断をつけ、薬物投与など治療方針を決める。重要なのは医師が行った診療内容を相談機関職員にフィードバックすることであり、これによって医師が患者もしくはその家族にどのように説明したか、今後どこでフォローしていくのか、治療方針などが伝えられる。これによってケアマネ等はよりよいケアプランを立てることができる。各所へのアンケートの結果、シートの利用によって医療機関

に診療が依頼しやすくなった、家族が相談機関の職員と一緒にシート 1 を記入するうちに、症状が整理され認知症が疑われることを実感するようになった、シートを記入して受診することで、家族が必要な情報を確実に伝えることができるようになった（本人にわからない形で）、シートがあることで主治医に状況がよく伝わり、本人と家族に丁寧な説明がなされた。薬も一包化された、受診結果や治療方針などの情報が、医療機関から在宅相談機関に伝わるようになった、主治医と生活上の課題に関する情報が共有できるようになり、意見書にも情報が反映されるようになった。それに伴って、適切な介護サービスの導入がしやすくなった、シート 3 の情報をもとに、対応方法について家族、担当者間で確認することができた⇒家族にも連携が実感され安心感の向上に繋がった、在宅相談機関が関わっていない方についても、医療機関から在宅相談機関に連絡が入るようになった、などの効果があったことを確認している。

シート 1 に記載されている 13 項目がはたして認知症診断に有用であるか否かについて、今後杏林大学病院を中心に検証する予定である。

“三鷹武蔵野認知症連携の会”では 2～3 カ月に 1 回連携会議を開催し、今後の認知症連携に関するあり方、課題を協議している。そのなかで出た課題として、在宅相談機関向けの認知症対応マニュアルの作成の必要性が挙げられた。これに対応するためスペシャリストである 3 人の分担研究者に

マニュアルの作成を委託した。各分担研究者の作成したマニュアルの内容は分担研究報告書に記されている。主任研究者神崎はこれらの報告書をもとに、また群馬大学医学部保健学研究科山口晴保先生の協力のもと、認知症在宅ケアマニュアル「認知症のことで困ったら」を作成した（資料4）。平成25年3月現在マニュアルはまだ作成中であるが、4000部を作成する予定であり、これを三鷹市、武蔵野市、さらに周辺の調布市、狛江市、小金井市、府中市、愛知県知多北部地域の地域包括支援センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、病院、診療所に配布し、各所から認知症の方を在宅でみている利用者に配布する予定である。その際、冊子利用の効果をアンケート形式で調査する予定であり、これを平成25年度の研究とする予定である。

#### E. 結論

認知症地域包括ケア実現のため、研究代表者は三鷹市、武蔵野市において認知症専門医療機関・地域のかかりつけ医もしくは相談医・在宅支援機関（地域包括支援センター、行政等）三者の連携組織である“三鷹武蔵野認知症連携の会”を設立し、4/9, 7/2, 10/15, 1/21 に連携会議を開催した。そのなかで、三者間双方向型情報交換シートの運用状況を調査した結果、三鷹市で112例、武蔵野市で80例のシート利用が確認された。そして、シート利用の効果として、三者間での情報伝達の円滑化、情報共有化によって認知症の早期介入、適切な介護サ

ービスの導入、患者・家族の安心感の向上が得られたことが確認された。また、分担研究者の協力のもと、在宅相談機関向けに認知症在宅ケアマニュアル「認知症のことで困ったら」を作成した。平成25年度に本冊子を関係各所に配布し、冊子利用の効用を調査する予定である。

以上、今年度は認知症患者ならびにその家族を中心とした認知症ケアネットワーク実現のための準備を整えることができた。

#### F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Atsushi Araki, Kouichi Kozaki, et al and the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Study Group : Long-term multiple risk factor interventions in Japanese elderly diabetic patients: The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial-study design, baseline characteristics and effects of intervention. *Geriatr Gerontol Int* 12 (Suppl.1) . 2012. 7-17 .
- 2) Atsushi Araki, Koichi Kozaki, et al and the Japanese Elderly Intervention Trial Research Group : Non-high-density lipoprotein cholesterol: an important predictor of stroke and diabetes-related



- mortality in Japanese elderly diabetic patients. *Geriatr Gerontol Int* 12 (Suppl.1) . 2012. 18-28 .
- 3) Kenji Toba, Kumiko Nagai, Sayaka Kimura, Yukiko Yamada, Ayako Machida, Akiko Iwata, Masahiro Akishita and Koichi Kozaki : New dorsiflexion measure device: A simple method to assess fall risks in the elderly. *Geriatr Gerontol Int* 12(3). 2012. 563-564 .
- 4) Nagai K, Akishita M, Shibata S, Kobayashi Y, Yamada Y, Kimura S, Machida A, Toba K, Kozaki K : Relationship between testosterone and cognitive function in elderly men with dementia. *J Am Geriatr Soc* 60(6). 2012. 1188-9.
- 5) Akishita M, Ishii S, Kojima T, Kozaki K, Kuzuya M, Arai H, Arai H, Eto M, Takahashi R, Endo H, Horie S, Ezawa K, Kawai S, Takehisa Y, Mikami H, Takegawa S, Morita A, Kamata M, Ouchi Y, Toba K : Priorities of health care outcomes for the elderly. *J Am Med Dir Assoc*, in press.
2. 学会発表
- 1) 神崎恒一 : (シンポジウム) サルコペニアと転倒. 第 12 回抗加齢医学会総会, 横浜, 2012. 6. 22.
- 2) 神崎恒一 : 高齢者の総合機能評価と多職種連携. 第 54 回日本老年医学会学術集
- 会, 東京, 2012. 6. 28.
- 3) 長谷川浩, 永井久美子, 塚原大輔, 井上慎一郎, 竹下実希, 長田正史, 佐藤道子, 神崎恒一, 鳥羽研二 : 中高年における背柱矯正・柔軟体操の経年的効果 (9 年次報告). 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 28.
- 4) 山田思鶴, 小川純人, 矢加部満隆, 山口潔, 神崎恒一, 鳥羽研二, 秋下雅弘, 大内慰義 : 地域在住高齢者における会議予防指標と転倒予防教室参加意欲との関連性. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 28.
- 5) 永井久美子, 秋下雅弘, 柴田茂貴, 小林義雄, 山田如子, 木村紗矢香, 町田綾子, 鳥羽研二, 神崎恒一 : もの忘れ外来を受診した男性患者におけるテストステロンと認知機能経年変化との関連. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 28.
- 6) 木村紗矢香, 山田如子, 町田綾子, 柴田茂貴, 杉浦彩子, 鳥羽研二, 神崎恒一 : 高齢者の耳掃除と認知機能の関係. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 28.
- 7) 山田如子, 木村紗矢香, 小林義雄, 中居龍平, 鳥羽研二, 神崎恒一 : 認知症高齢者の入浴回数は認知機能の判断基準となり得るか. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 28.
- 8) 田中政道, 長谷川浩, 須藤紀子, 永井久美子, 神崎恒一 : 高齢外来通院患者における虚弱スケールの臨床的意義に関する

- る検討. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 29.
- 9) 小島太郎, 秋下雅弘, 荒井秀典, 神崎恒一, 葛谷雅文, 江頭正人, 荒井啓行, 高橋龍太郎, 江澤和彦, 鳥羽研二: 高齢者医療の優先順位に関する意識調査 (続報). 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 29.
- 10) 永井久美子, 小林義雄, 園原和樹, 須藤紀子, 鳥羽研二, 神崎恒一: 脳皮質下虚血病変の局在と老年症候群の関連について. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 29.
- 11) 柴田美帆, 柴田茂貴, 永井久美子, 須藤紀子, 長谷川浩, 神崎恒一: 老人保健施設通所利用者の難聴と認知症の実態 (簡易聴覚チェッカーの活用). 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 29.
- 12) 神崎恒一: (ワークショップ) レジデントを対象とする卒後教育. 第 54 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2012. 6. 30.
- 13) 神崎恒一: 認知症診療における地域医療～三鷹・武蔵野市認知症連携の会～. 認知症協力医育成第 2 回「認知症フォローアップ研修」, 松戸, 2012. 7. 12.
- 14) 神崎恒一: 認知症の診断と治療. 第 1 回認知症ネットワーク研究会, 東京, 2012. 7. 13.
- 15) Shigeki Shibata, Kumiko Nagai, Hitomi Koshihara, Noriko Sudo, Hiroshi Hasegawa, Benjamin D. Levine, Koichi Kozaki: A novel index for arterial stiffening with aging, 第 44 回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 福岡, 2012. 7. 19.
- 16) 神崎恒一: 認知症の診断と治療の動向. 「医療保険を考える会」学術講演会, 東京, 2012. 7. 27.
- 17) 神崎恒一: 認知症「老年医学の立場からみた認知症診断」. 健康長寿医療フォーラム in 大阪 2012, 大阪, 2012. 8. 25.
- 18) 神崎恒一: 動脈硬化と認知症. 第 17 回医歯薬連携の会 (西東京市・東久留米市), 西東京, 2012. 9. 1.
- 19) Koichi Kozaki: Frailty in older people. 8th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Brussels, Belgium, 2012. 9. 27.
- 20) 神崎恒一: 認知症と向き合う. 平成 24 年度ちょうふ市内・近隣大学等公開講座, 調布, 2012. 10. 12.
- 21) 神崎恒一: 認知症診断における地域連携の重要性. 第 2 回認知書診断・治療ネットワーク, 横浜, 2012. 12. 5.
- 22) 神崎恒一: 認知症と転倒. 第 16 回認知症を語る会, 東京, 2013. 2. 23.
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他  
なし

三鷹武蔵野認知症連携を考える会  
第19回ワーキンググループ会議議事録

日時：平成24年4月9日（月）19：00～

場所：杏林大学医学部付属病院

1. 新規メンバーご挨拶

三鷹市行政

高齢者支援課高齢者相談担当課長 馬男木氏

高齢者支援課高齢者支援係 人見氏

三鷹市医師会

くぼかわ内科医院 院長 窪川良廣先生

三鷹市医師会長若林医院 若林先生はオブザーバーとする。

武蔵野市行政

吉祥寺ナーシングホーム在宅介護支援センター 風間氏

高齢者総合センター在宅介護支援センター 柳野氏

地域包括支援センター 重松氏

2. 今後の認知症連携について（認知症疾患医療センターとの関係で）

神崎医師

杏林大学が認知症疾患医療センターに選定された。疾患医療センターの役割として下記の6項目に関して説明がなされた（配布資料あり）。

①専門医療相談の実施、②認知症の診断と対応、③身体合併症・周辺症状への対応、④地域連携の推進、⑤専門医療、地域連携を支える人材の育成、⑥情報発信。

相談室スタッフとして、名古屋氏が任命された。今後は、WG活動をベースに、二次医療圏全体を対象として連携を強化していく。他市とも連携を強化しなければならないため、今後、三鷹・武蔵野の皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかもしれないが、ご理解と引き続きのご支援をお願いしたい。

武蔵野市 大平氏

疾患センターの役割④地域連携の推進の中で、協議会の開催とあるが、家族の会、保健所は要件として必須か？

神崎医師

必須とは考えていないが、必要に応じて連絡をとる。

武蔵野市 大平氏

6市での展開は、どのように考えているか？

神崎医師

まず、各医師会の代表へ赴いて、今後の連携について説明する。その際には、府中保健所の方が連携の橋渡しとなって頂けることを期待している。

三鷹、武蔵野の連携はすべての面で先行している。モデルケースとさせて頂き、他のエリアでも同様に進めていきたい。

名古屋氏

認知症疾患医療センター開設後の相談件数は1件のみであり、市職員からの相談であった。患者様の来院は未だない。

鎌田医師

疾患医療センターとなったことで、患者が殺到する可能性があるが、どのように対応するのか？

神崎医師

相談件数や、当院の受診待ちが更に延長することが考えられる。抜本的な解決策は直近の検討課題として掲げており、今後も専門医療機関（日赤・宇野先生）との連携、医師会の先生方のご協力は必須と考えている。

長谷川医師

もの忘れセンター外来の地域連携枠は三鷹・武蔵野市に限定している。今後も、三鷹・武蔵野連携WGの経験をもとに、これまでと同様、強い関係を保った上で、他地区との連携を進めていきたいと考えている。

### 3. 連携シートの運用状況・事例の確認

三鷹市 桑田氏

前回WGから運用事例が5件増えた。  
本格実施から3月で18件、(包括9件、ケアマネ9件)  
三鷹市の17の医療機関が関わっている。

三鷹市 佐久間氏

本格実施以降、ケアマネ交流会を通じてシートのメリット、デメリット、利用の仕方（演習）・連携シートの改善点の抽出を行い、ケアマネへの周知を図っている。参加者は、2月28日；29名、3月14日；21名であった。次回は6月開催を予定している。

三鷹市 服部氏

ケアマネ交流会にて、2回目のシート記載演習を行った。シート3に記載される先生との連絡手段を取り合う方法を検討した。継続的な演習を行い、シートの内容が、介護の意見書に反映されるよう活動していく。

武蔵野市 金子氏

連携シートの運用状況：本格運用後13件、合計66件で活用された。そのうち半数は、もの忘れ相談医療機関であった。

認知症コーディネーター会議を1回/月行い、シートの運用を中心に情報交換を行っている。

#### 認知症コーディネーター会議での具体的内容

##### 1. 本格運用後のシートの利用件数

ケアマネの利用が進んでいない。理由は、シートがなくてもDrとの連携が取れるケースが多いためである。反面、相談医への敷居が高い場合も利用出来ていない。

課題は、シート利用のメリットを実感して頂く事で、今後、運用の成功事例を積極的に発信していくこととした。

##### 2. 同一医療機関への集中傾向

シート使用実績のないDrに繋げる場合は、受診前に情報をしっかり伝え、可能な限り受診に同行し、シートの運用に導いている。

##### 3. 相談医以外でも協力体制の増加

もの忘れ相談医登録に協力頂くよう、働きかけている。

神崎医師

本格運用開始以降の運用状況は、あまり芳しくない理由は何か？  
シート記載には手間がかかるが、全て埋める必要はないと考えている。  
引き続き皆様からの意見を求める。



武蔵野市 伊藤氏

シートに関しては、利用しなくても連携成立をする場合がある。利用が必要な患者様が適切に使用される事が重要である。認知症患者様は、非常に多いが、運用枚数は、急激に増えることは考えにくい。

三鷹・武蔵野市での検討事項として、介護施設（ショートステイを含む）に対するネットワーク支援対策を依頼したい。

三鷹市 服部氏

疾患医療センターの移行は、自分達が相談する上で、どのような事を相談する事が出来るのかを教えてください。具体的な相談事項を報告して頂けると参考になる。

神崎医師

次回から医療相談室担当の名古屋氏に、具体的な相談事例の報告を依頼した。

#### 4. 三鷹、武蔵野薬剤師会のご挨拶

三鷹市薬剤師会 会長 笹森氏

三鷹市薬剤師会としては、認知症医療への貢献に何が出来るかを検討したい。WG への協力も周知徹底し、出来る限り行っていきたい。一方で薬剤師会へ加入していない方も多くおり、全体の統一感には若干不安もある。

武蔵野市薬剤師会 会長 長田氏

武蔵野市薬剤師会としても地域連携に薬局、薬剤師がお役に立てればと考えている。引き続き WG 活動には協力していきたい。

#### 5. 次回 WG

平成 24 年 7 月 2 日（月） 19:00～ ？

武蔵野市（行政）担当

次々回会場は武蔵野赤十字病院とする。

以上

## 第 20 回三鷹武蔵野認知症連携ワーキンググループ会議議事録

日 時：平成 24 年 7 月 2 日（月）18:30～19:15

場 所：武蔵野商工会議所

### I. シートの運用状況

#### 武蔵野市

ご家族が認知症と認めていない場合、シートの運用が困難と感ずることがある。上記ケースの場合、署名欄があるため本当に伝えたいことが書けなく悩むことがある。

#### 三鷹市

運用状況は 4 月以降 27 件に増えてきた。（4 月までは 18 件であった）

運用実績簿を参照

シート 3 より使用開始した事例もある。

ケアマネ対象にシートの演習を行い、良かった点、疑問点を拾い上げた。

チェックボックスがあって使いやすい

同じ事を何度も書かなければいけない

などの意見があった。

家族が理解不足の場合、どのように協力体制をとっていくかが難しい。

ケアマネの理解をさらに深める必要がある。

### II. 杏林大学 認知症疾患医療センターへの相談状況

4 月以降の相談件数は 30 事例であった。

当センターに通院している患者さんからの相談がほとんどであった。

相談者の居住地は半数以上が三鷹市武蔵野市であった

地域包括支援センターとのやりとりが一番多かった。

### III. 新シート 7、3 改訂に関して提案

シート 3 発行後の在宅での状況を相談機関から医療機関に向けて伝えるためのシートを新しく作る方向で検討している（武蔵野市金子さんより）

#### 案 1

新たなシート 7 を作成。最近の生活状況を記入

寝たきり度に○印をつけて変化を記載する

#### 案 2

シート3を一部修正したもの利用  
相談機関を記入  
シートが増えると負担になるので、  
シート3の横に追記欄をつくり、経過が見えるようにした。

次回までにご意見を頂きたい

厚生労働省「今後の認知症施策の方向性について」の紹介があった。

次回

日時：10月

場所：武蔵野赤十字病院

以上

第21回三鷹武蔵野認知症連携を考える会  
ワーキンググループ会議議事録

平成24年10月15日(月)19:00～  
武蔵野赤十字病院 山崎記念講堂

1. ご挨拶

武蔵野市より新規メンバーのご紹介

毛利さん

荻原さん

小金井市

医師会長 丸茂先生

副医師会長 竹田先生

公衆衛生担当 小林先生

介護福祉課長 高橋さん

課長補佐 高橋さん

包括支援係 本木さん

武蔵野中央 院長 牧野先生

武蔵野中央 精神科相談室 池氏

神崎医師

北多摩南部医療圏の連携体制に関して、11月5日に開催される6市協議会  
の中で検討するよう予定している。

2. シートの運用状況

武蔵野市 金子氏

本格運用からまもなく1年となるが、試行期間から数えて74件、本格運用  
後27件、今年度4月から8件の実績を確認している。

実績の詳細は配布資料を参照。

シートを活用した医療機関は専門医療機関が多い印象を持っている。杏林大  
学へつなぐ場合は地域包括枠を使っていることが多い。

シートを利用した医療機関相談件数は76件であり、1医療機関で複数回利  
用した場合も含まれる。複数回利用している医療機関はスムーズにシートが  
運用されている。

認知症連携をテーマにした4箇所の地区別ケース検討会を行い、シート運用に関するアンケートを実施した。

アンケート結果は配布資料を参照。

抜粋)

①シートの利用が進まない理由

シート利用方法がわからない、記入が大変

どの医療機関につなげたらよいかわからない

家族の認知症に対する理解が深まっていないと、シートへの抵抗感が強い

②シート利用の必要性が無い

直接先生とコミュニケーションがとれている

③医療機関との連携の問題

もの忘れ相談医への周知がはかれていないと感ずることがある

④演習後の感想

医師に認知症の状況を伝えたい場合や、シートの情報を意見書に反映してもらうために、介護保険の更新時期にシートを活用したい。

文書量の問題、シート2の書名欄がネックになることがある。

神崎医師

シート3は情報提供料として、保険請求可能である。無償のサービスではないことを事前に伝えておくことも重要と考える。

相談医への周知はどのように確認すればよいか？

田原医師

今後の協力に関して再びアンケートを行っても良いと思う。

医療機関との間に問題があった場合には医師会へ報告して欲しい。サポート医、担当理事の役割として、医療機関とケアマネをつなぐことも重要と考えている。解決策を講じていきたい。

神崎医師

8件の専門医療機関以外にあがっている連携シートを利用した施設は相談医か？

金子氏

白田医院以外は相談医として登録がある医療機関である。



三鷹市

桑田氏

前回以降シートが運用された No.46 から 58 まで 15 件の報告がなされた。  
配布資料を参照。

他エリア：鳥山クリニック（世田谷）へはシートの内容もすぐにご理解頂けた。

シート 3 に診療報酬に関わる場合があることを記載しても良いのではないか。

武蔵野市と同様で周知への疑問、手間がかかるといった意見がある。

医療機関ごとの運用実績を作れば参考になる。

シート 4, 5, 6 の運用実績も把握したい。

もの忘れ相談医リストを随時更新して欲しい。

杏林大大学連携室 平田氏

杏林大学のケースでは、シート 1, 2 を持ってこられた場合、特定療養費 3 1 5 0 円がかかっている。包括で書かれたシート 1, 2 は紹介状にならない。医師会の先生が書いた書式であれば 3 1 5 0 円は免除される。報告書なのか、紹介状なのか？点数を算定する基準として欲しい。

### 3. シート 3 の修正に関して

金子氏

改定シート 3, 7 に関してご意見を頂きたい。

シート 3 を頂いたのち、ケアマネから医師へ、その後の状況を報告するためのシートとして作成したものである（案）。

改定シート 3

現状のシート 3 に、相談機関記入欄を設けて、その後の状況を記載できるようにした。

シート 7 シート 6 の内容に準じている。自由記入欄で介護の状況、家族の認識、家族の負担の変化などを記載できるようにした。最近の状況が記載可能となっている。

神崎医師

発行するタイミングは？

金子氏

シートは気軽にやり取りをして頂くものと考えているので、タイミングは特に決めていない。なんらかのサービスが新たに開始された時や問題が起こったときの報告書として活用したい。

神崎医師

シート3の改定に関しては三鷹、武蔵野市で協議して頂きたい。

#### 4. 杏林大学認知症疾患医療センター報告

名古屋氏

これまで精神科への入院ケースの相談が多くであったが、他の相談も増えてきている。

具体的事例2件の報告があった。

もの忘れセンターにかかっている、家族からの相談も増えてきている。受診に関する相談内容が多い。徐々に疾患センターが周知されてきていると感じる。

#### 5. 6市協議会

神崎医師

三鷹武蔵野と同じような仕組みを二次医療圏6市に広げていくことを目的として11月5日に協議会を行う。各地区の包括、行政、医師会、専門病院に加え、東京都からもオブザーバーが参加予定である。

サポート医、在宅相談医との連携体制の把握から始めていく。

今後も三鷹武蔵野の連携の会は独立した会として継続をしていく方針だが、大きな連携にご協力をお願いすることがあるかもしれない。

#### 6. その他

服部氏

疾患センターの機能

医療機関から声をかけて頂き、カンファレンスを企画し支援策を検討する事例は先駆的なもので、地域の相談機関としては大変ありがたい。ケアマネからすると医師に対する壁はあり、今回の事例を情報発信して頂くことで、ケアマネと医師との垣根の解消の一助としたい。